

二ホンジカの対策について

近年、サル、イノシシ、シカなどの野生獣による農林業に対する被害が深刻化しています。被害は植栽木にとどまらず、ササや下層植生の食害により林地が裸地化して土砂が流出したり、今まで見られなかった植物が出現したりと生態系への影響も懸念される段階にまで来ています。

昨年度、県内の推定生息数が見直された結果、従来の26,000頭から47,000~67,000頭と大幅に上方修正されました。そのようなことから、情報収集や現状分析、被害対策の検討を行うため県林業関係職員によって森林土壌保全(二ホンジカ対策)ワーキンググループが立ち上がり、鳥獣害対策を強化するため今年度から県庁森林政策課内に鳥獣対策室が設けられました。県内で年間16,000頭(今年度は13,000頭)を捕獲目標として森林税事業の「湖国の森林と自然を守る二ホンジカ特別対策事業」等を活用して各市町が主体となり捕獲に取り組んでいます。



裸地化した山肌



食害により下層植生が消滅

また、今後の被害対策や生息密度の管理のためにワーキンググループのメンバーを中心にシカによる森林植生衰退状況調査を県下で実施しました。中部森林整備事務所管内で30箇所以上のポイントで調査した結果、鈴鹿山系の奥山ほど植生の衰退度が高い傾向が確認されました。ハンターが減少している中、奥地にいるシカの捕獲をどのように進めていくか、今後の課題です。(田上)

里山の獣害対策 ☆新規事業☆ のご紹介

緩衝帯整備で人と獣の住み分けを!



●すぐ横の林が獣の住み家になっていませんか!?

山裾の集落で獣害が目立ち始めた理由の一つに、人と獣の近接化があります。従来は人の出入りがあった里山も、今では誰も利用しなくなりやぶ化してしまっています。

そうすると田畑(=餌場)に近くて、人目にも付かない山裾のやぶは獣にとって絶好の住み家となってしまいます。



●見通しの良い山裾で人と獣の『緩衝帯』を整備しましょう!!

「里山リニューアル事業(緩衝帯整備タイプ)」が平成24年度より事業化されました。

- ◆山裾をぐるっと取り巻く帯状に森林を伐採し、見通しがきくようにします。
- ◆それにより獣が里に下りてくるのが少なくなるよう「緩衝帯」として整備します。
- ◆地元の負担金は一切必要ありません。
- ◆実施後の維持管理は地元の皆様でお願いします。

もちろん緩衝帯整備だけでは獣害をなくすことはできません。

野菜くずや果樹が田畑に放置されていませんか? 防護柵が破れていませんか?

里山リニューアル事業に併せて、獣害に強い集落となるよう点検を実施し、みんなの力でトータルに獣害から里を守りましょう。(梅原)



果樹の放置厳禁



防護柵と併せて実施し効果アップ

編集後記

先日、ある素材生産業者の方から話を聞く機会があり、伐採する際には「木の値段を適確に見定め、工夫して伐採している」とお聞きしました。商品である木材の川下のニーズを知ることは、川上の各取り組みに関わる際に大切なことなのですね。(中川)

こんな活動やっています

琵琶湖の水をまもりたい ~富之郷里山クラブ~

私たちは、多賀町富之尾の山林を活動の場として、里山の整備と自然観察会を行っています。この場所は、昔は里山だったのですが、すっかり荒廃して鬱蒼とした森となり、人も入れない状態になっていました。この山林の所有者だった故上田健吉氏が、何とかして里山を生き返らせたいという強い思いを持ち続けている中、平成18年に滋賀県が県民参加の里山づくり事業を開始したので、その補助を受け、代表の川治達也氏を中心に「富之郷里山クラブ」を立ち上げ、「佐和山の森を美しくする会」と協調して、里山再生に取り組みました。

今年で6年になりますが、2010年にはCOP10パートナーシップ事業としての記念講演会と自然観察会を開催しました。

● 毎年の活動としては、3~11月の毎月、第二水曜日(原則)は自然観察会、第三土曜日は里山整備(8月を除く)を実施しています。また、毎年5月には一般の人を対象にしたイベントとして、自然観察会とぼんがら餅づくりを行っています(平成25年は5月25日開催予定)。

私たちの願いは、沢山の人に里山を体験していただき、里山の自然を愛し、森林を健全な状態に保全することによって、大きな水の循環の一部を担い、琵琶湖の水をまもりたいということです。「里山に入ろう!」を合言葉に、多くの方々のご参加をお待ちしております。

富之郷里山クラブ 代表 鈴木 茂
電話 090-2066-6900



春の自然観察会



ぼんがら餅づくり



河辺いきものの森

東近江市の愛知川に架かる八千代橋の南詰に位置する「河辺いきものの森」。15ha(300m×500m)の平地林でぐるっと歩いて回っても時間がかからずお手軽な散策スポットです。

森に合わせて作った散策路、様々ないきものがふれ合う水辺、地上12mもある樹の上の歩道「林冠(りんかん)トレイル」など様々な視点から森を楽しむことができます。またなつかしい里山林であり、様々な植物、生き物であふれており、鈴鹿の源にあるような高山性の植物も数々みられます。

里山の自然とは人とのかわりの中で維持されるものです。ここでは里山保全活動団体「遊林会」が保全活動を行っています。遊林会のきめ細かな整備方針から生まれる多様なフィールドはこの森をより一層豊かなものにしています。

今の季節は一足はよい春の息吹を感じたり、明るい林内で鳥の気配を感じたり動物の痕跡を探してみたり...季節に応じていろいろな楽しみが待っています。

ご家族そろって散策するもよし、森林作業で汗を流すもよし、一度訪れてみてはいかがでしょうか。ちなみに遊林会は会員制をとらず何時でも誰でもウェルカム。毎月第2土曜日、第4水曜日が定例作業日です。(梅原)

【遊林会事務局】 TEL 0748-20-5211



初めての視点 林冠トレイル



ボランティアのみなさんによる作業の様子。定例作業日には昼食がです。